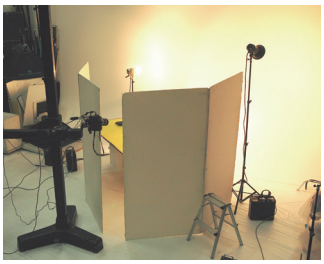
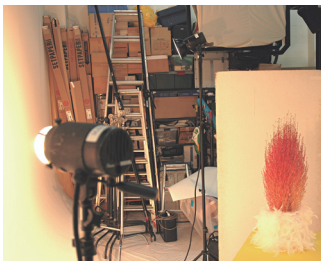
## 撮影ステップ

### STEP 01



撮影セット全景。レフ板で被写体が見えないが、ライトをホリゾントに当てて、間接光によるライティングになっている。メインライトは左側のリフレクターの無いストロボ

### STEP 02



メインライトと被写体の位置関係。ストロボはこのように壁のほうに向かって照射する。完全に間接照明で撮ることになる

### STEP 03

被写体から一番遠いライトはリフレクターを外し、光の中心はホリゾントに向けつつ、こぼれた硬い光を被写体の側面から照射して、質感描写に貢献させている

撮例 01

# 柔らかい物を撮る

撮影　伏見行介（MASH）　　スタイリスト　笹子友恵（MASH）

柔らかい物を柔らかく撮るには、逆光から生まれる陰影を利用する。光源にはストロボを３灯使いスタジオホリゾントに照射。うち１灯を遠くに置いて、発光部のリフレクターを取り外してこぼれた硬い光を被写体に間接的に当てる。これにより羽毛の明暗がはっきり出るので、立体感と柔らかな質感が出る。ホリゾントから反射した光を受けるために、カメラの左右に大型のレフ板を配置して被写体を覆う。また、描写性能が低めのレンズをわざとチョイスして、レンズのハレーション（レンズ内での乱反射）を利用する。

### CHECK POINT

- ☑ ストロボを3灯使用する
- ☑ メインライトのリフレクターを外して被写体に直接照射
- ☑ レンズのハレーションを利用する

### DATA

カメラ ……キヤノンEOS-1Ds
レンズ ……EF28-135mm F3.5-5.6
メインライト ……ストロボ（300W、リフレクターをはずす）
トップライト ……ストロボ（300W）
バックライト ……ストロボ（300W）

撮例

# 02 硬い物を撮る

撮影　伏見行介（MASH）　スタイリスト　笹子友恵（MASH）

メタリックな物体や硬質感があるものを撮るときは、ストロボで明暗のはっきりしたライティングで撮る。暗部の質感を大事にすると硬質感がより際立つ。ストロボは「ボックスライト」と呼ばれる面光源を 1 灯のみ使用。そのままでは光源の面積が広すぎて、周囲に光が反射して柔らかい印象になるので、ボックスライトの発光面前面に黒紙を貼って光がまわり込まないようにカットして周辺部が暗くする。また、鏡面やガラス面への映り込みにも注意しよう。

### CHECK POINT

- ストロボ光で明暗をはっきりさせる
- ボックスライトに黒紙を貼って光が回り込まないように
- 鏡面への映り込み対策をしっかり行う

### DATA

**カメラ** ……キヤノン EOS-1Ds
**レンズ** ……EF28-135mm F3.5-5.6
**メインライト** ……ストロボ（300W、リフレクターをはずす）
**トップライト** ……ストロボ（300W）
**バックライト** ……ストロボ（300W）

## 撮影ステップ

### STEP 01

撮影セット全景。手前のレフ板の奥にバンクライトを置き、これをメインライトとする。撮影台は奥行きを長めに取ることで、柔らかい光が全体に行き届くようにする

### STEP 02

メインライトはストロボとボックスライトの組み合わせ。ボックスの前に黒い紙を貼ったボードを置いて余分な光をカットする。陰影をきかせることで被写体と周辺の質感をアップさせる

### STEP 03

ダンボールの裏にサイズを合わせてカットした白い紙を貼り付ける。この紙が手前の時計へ映り込むことでベルトや文字盤が明るくなり、質感描写がぐっと良くなる